

“懐かしさ”と“新しさ”の融合 チエキでかごしま薩摩川内を観る。

鹿児島女子短期大学 教養学科2年

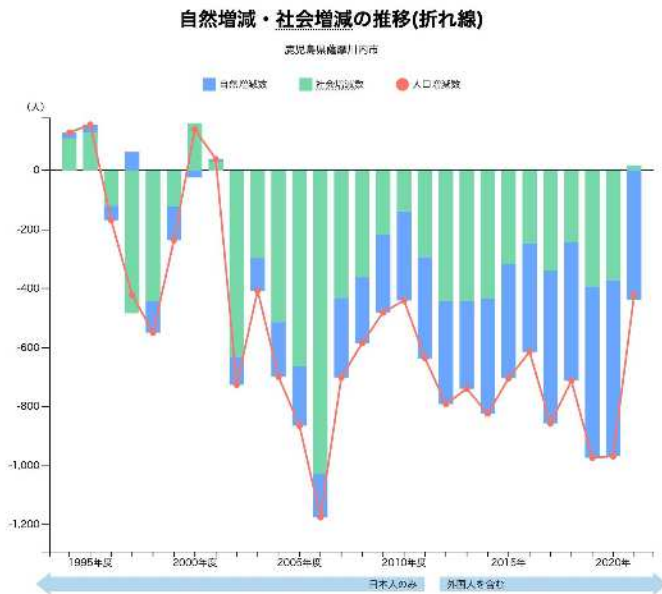
岡野陽華、岸良理子

薩摩川内市の特徴

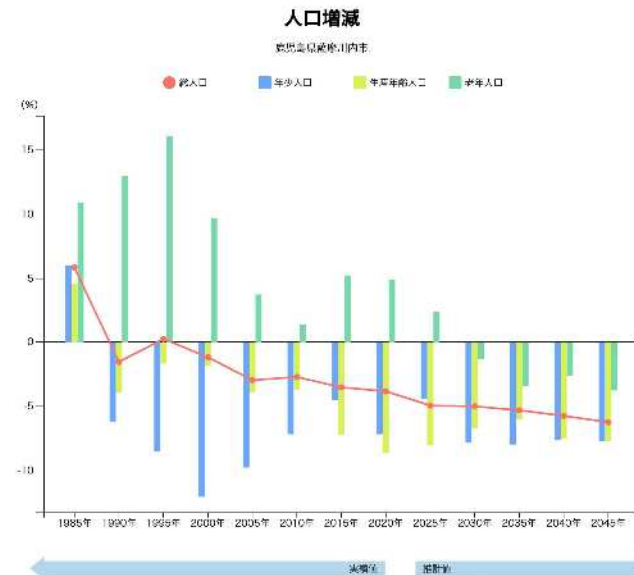
- 鹿児島県人口4位(93009人)
- 九州新幹線・肥薩おれんじ鉄道
- 甕島などの美しい自然景観
- 原子力発電所など国内でも有数の施設
- 半導体、製紙、食品加工業(特に焼酎製造)などの二次産業
- 日本を代表する甲冑工房や酒造メーカー
- 鹿児島らしい温泉や
- 鹿児島空港から下道では鹿児島中央駅までと同じ距離(約1時間)



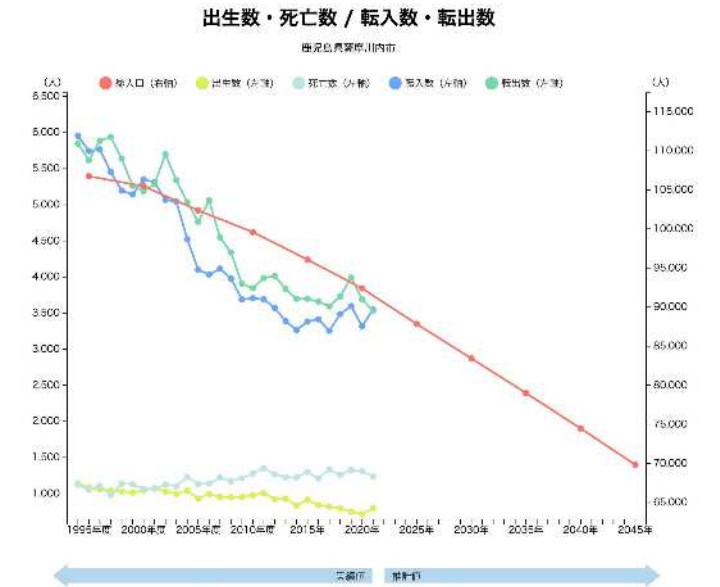
RESASから見る人口減少



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

右肩上がり減少、2022年の出生数は644人。
前年からマイナス18.8% 驚異的な減少傾向

私たちの問題意識

薩摩川内の街角には、かつて子どもたちの笑顔や家族の賑わいが溢れていた。今、その風景は影を潜め、静寂が広がっている。かつての熱気は消え、閉じた店舗や空き家が増えているようだ。それはただの数字や統計の問題ではなく、心の奥底で感じる「何か」が失われていく悲しみである。このままだと、私たちが愛するこの街の魂や文化、歴史までもが風化してしまうかもしれない。私たちの思い出や、ここでの絆、それぞれの物語が、静かに息を失いつつあるのを感じる。

地元が大好きな私たち一人一人が、この地元が急激に衰退していくことを緩めていきたい、持続可能な薩摩川内を見つめ直したいと思ったことがきっかけである。

懐かしさと伝統が残る鹿児島島の街を残していく。

薩摩川内市の人口減少に関して

2020年は-3.81%

2030年には-5.00%

2040年には-5.72%の推移で減少傾向が見られる。

多くの若者が都市部への移住を選び、その結果、地域の活気や経済活動に影響が出ている。加えて、出生率の低下と高齢者の増加が進行する中、地域の経済や社会インフラの維持が課題となっている。これらの変化に伴い、地域の伝統や文化の継承も難しくなりつつある。今後の持続的な発展のため、若者の定住促進や産業活性化などの対策が必要とされている。

止められない人口流出を緩やかにするには？

背景と分析

薩摩川内市は、鹿児島県に位置する都市で、近年の人口減少の傾向が顕著に見られる。この問題の背景には、以下の要因が考えられる。

- (1) **若年層の都市流出**: 多くの地方都市と同様に、薩摩川内市も高校や大学卒業後の若者が大都市への就職や進学を目指し、地域を離れる傾向が強い。これが、地域の活力や経済の衰退を招いている。
- (2) **高齢化社会**: 日本全体の高齢化が進む中、地方都市ではこれが特に顕著になっています。地域内での出生率の低下とともに、高齢者の比率が増加しており、これが市の将来の不安材料である。
- (3) **地域経済の停滞**: 伝統的な産業の衰退や地域資源の活用不足など、経済の停滞が続いている。新たな雇用の創出や若者の定住を難しくしている要因と言える。
- (4) **社会インフラ**: 公共交通機関の減少や医療施設の不足など、地域の社会インフラが十分に整備されていないことも、人々の移住や定住を妨げている一因となっている。
- (5) **情報格差**: 大都市や情報発信が盛んな地域と比べ、薩摩川内市の魅力や資源が全国に十分に伝わっていない可能性があります。これが、新たな住民や観光客の流入を制限している。

他の都市の事例

- 兵庫県明石市→子供の医療費が中学3まで無料、保育料が2人目から無料、全校実施の中学校給食、中枢都市初の給食無償化
- 千葉県流山市→「子どもの臨時給付金」という制度で児童1人あたり1万円の給付、3～5歳児に在籍する幼稚園や保育園などの利用料も無償化

子育て世帯を支援するのは
すでに当たり前？

人口減少への対策

- 他市区町村が実施しているベストプラクティスを採用していく。
- 薩摩川内の魅力を継続的に発信していく。
- Jターン減少に関する対策を行う。

👉 外部のコンサルや業者に頼らず内部組織で活性化させる

👉 年齢問わず住みやすい環境づくり

私が提案する具体的な対策

- (1) 子育て世帯への支援、子育てしやすい町づくり
- (2) 産業を強化し雇用を維持する。
- (3) 交流人口を増やし経済を安定させる。
- (4) ITやデジタルの積極的活用する。

それに加えて興味→行動の
ハードル下げるとのための施策



「懐かしさと新しさ」
をテーマに街歩き
イベント。



「チェキで撮る薩摩のまち」の開催

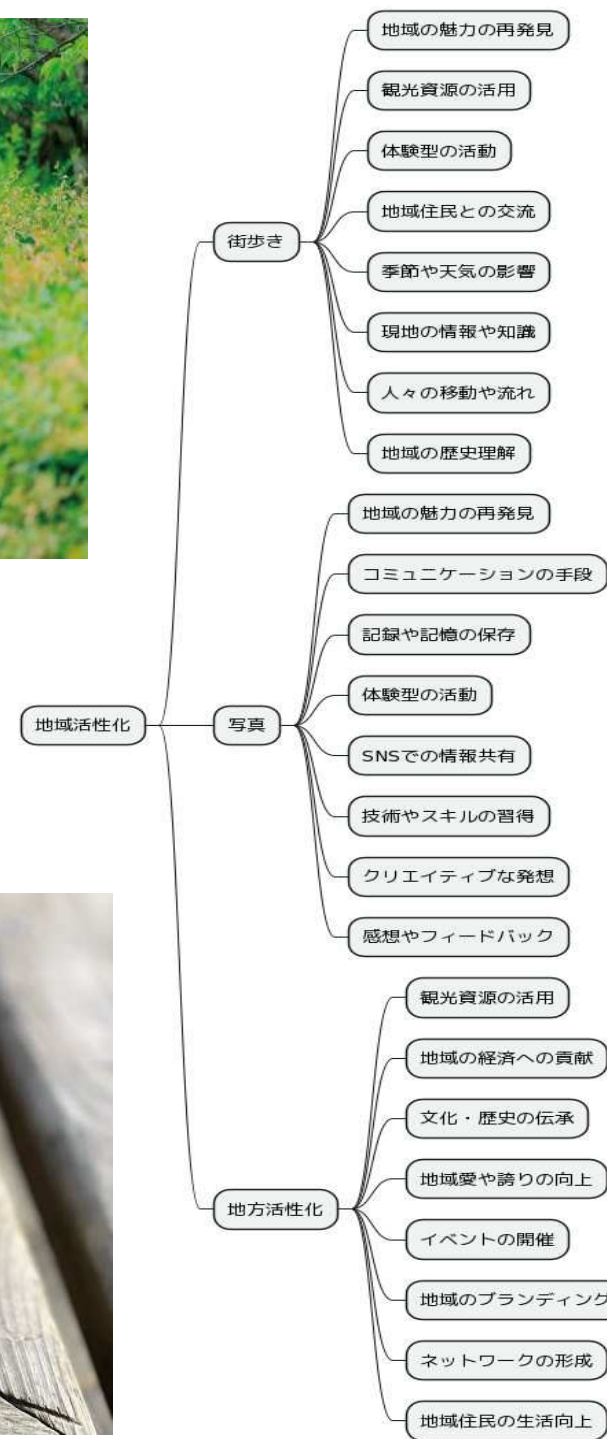


街歩き

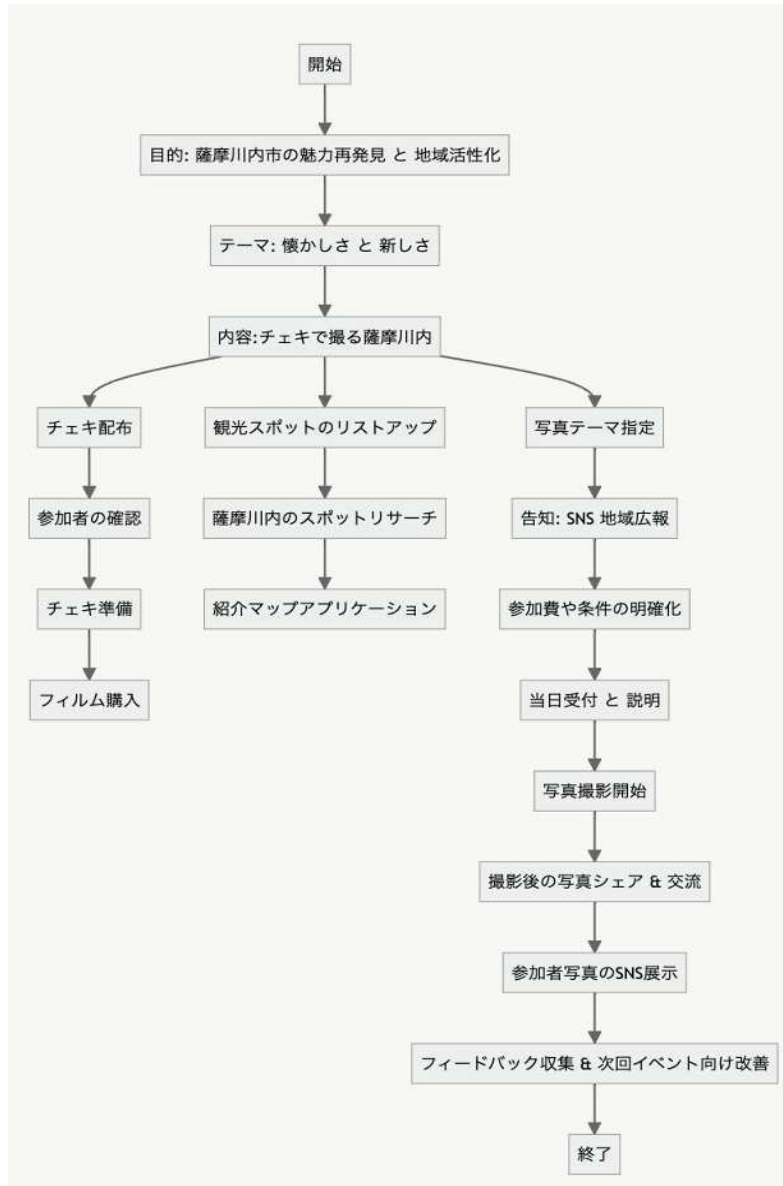


地元での活性化

写真



イベント実施の流れ。



- ・ 観光スポットの策定と街歩きのルートを確立する。
- ・ 地元学生や地域住民のおすすめスポットをマップ化する。
- ・ チェキで撮った写真は持ち帰ってもらいSNSで共有することで波及効果を生む。
- ・ 可能ならば参加者には宿泊をしてもらい経済効果を生む。
- ・ 参加者からのフィードバックを参考にし次回以降のイベントを改善する。再訪者に対して割引などを導入し、循環させる。

まとめ

薩摩川内の人口流出や衰退を防ぐために、他の市区町村のベストプラクティスを採用し、歯止めをかけたい。

そのためには(1)子育て支援(2)雇用や産業の強化(3)交流人口の強化(4)デジタルの活用を積極的に行うことで、人口減少を緩やかにしていく。

老若男女問わず参加できるイベントを外部に依存せずに作り上げていく。学生や女性中心の設計をする。

鹿児島や薩摩川内には、都市部の人々が欲しがるコンテンツが盛りだくさん。「チェキで撮る薩摩のまち」を通して心理的なハードルを下げて実際に来てもらうことで、魅力を伝えていきたい。

参考文献、参考資料

- RESAS(地域経済分析システム)
- 薩摩川内市WEBサイト
- 明石市WEBサイト
- 流山市WEBサイト
- 川内高城温泉 | 観光スポット | 【公式】鹿児島県観光サイト かごしまの旅